

鉄粉取りについて

ほとんどの車のボディに多かれ少なかれついている鉄粉。普段は全く気付かずに乗られている方がほとんどです。ですが、洗車などをしていて何かざらざらしてるなぁと感じたらそれは鉄粉の可能性が大です。目に見える黒い点や茶色い点のようなものもあれば、手で触らないとわからない小さなものもあります。この鉄粉取りをメインで作業させて頂いた内容をご紹介します。

【作業内容】

手洗い洗車+鉄粉取り+コーティングメンテナンス

白のプリウスαにお乗りのオーナー様の普段の駐車環境は線路の近く。

何かザラザラしているので鉄粉だと思うんですが取れますか？とご相談いただきました。

多量の鉄粉取りには鉄粉を溶かす専用クリーナーとトラップ粘土という鉄粉取り専用の粘土を使います。

溶剤だけでは塗装面にささった鉄粉を取りきる事は困難です。

ですが、今回の場合軽度の鉄粉でしたのでトラップ粘土を使用し、固着した異物（主に鉄粉）をクッション材的役割を果たす専用の泡と水を使って取り除いていきます。

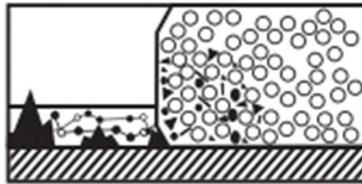
こうする事で極力塗装面にキズをつける事なく作業できます。

しかしながら鉄粉の刺さっていた場所などはコーティングが欠損している場合がありますし、鉄粉取りによって薄いスクラッチキズが付く事もあります。それらを補修する意味でコーティングメンテナンスを行う事をおススメしております。

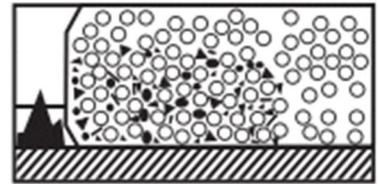
トラップ粘土の秘密



すべりやすい状態 (水+ピュアアップ4) で上をこすってもコンパウンドは効かないのでボディを傷めません。



トラップ粘土が鉄粉等の上を通過する時。



粘土がかきわけられて鉄粉等のみを強力にけずり取ってくれる。

今回のプリウスαには他社の親水系ボディガラスコーティングがかかっていたのでオーナー様が施工時に購入されていたメンテナンス剤を使ってメンテナンス致しました。他メーカーのコーティングであっても水系のものならキーパーコーティングのメンテナンスを行う事も可能です。ツルツルボディにコーティングメンテナンスをさせていただき、新車に戻ったみたい！とオーナー様には大変よろこんでいただきました。

鉄粉がついていると何がダメなのか、何故鉄粉がつくのでしょうか？

鉄粉は鉄道の近くや工場の近くに駐車しているとよく付着します。

駐車環境だけでなく、走行中にブレーキパッドの粉などが付着する事もあります。

比較的とがっているものが鉄粉で、手で触るとザラザラしています。

このザラザラに汚れが引っかかりやすくなるので鉄粉は取り除く方がベターです。鉄粉を放置しておくと時間の経過と共に塗装面に刺さった状態で錆びたり溶けたりしますと塗装にも良くありませんし、美観的にも悪いですよね。

カーコーティングするときには鉄粉も一緒に取っておく事をおススメします。